

病院deART

～外来待合スペースを活用し、プロ写真家の作品や地域の方々の作品を展示します～

入院患者さんや外来の患者さんに良質なアートに触れていただき、気分をリフレッシュしていただこうと2017年11月27日から外来スペースに作品閲覧用ショウケースを設置致しました。

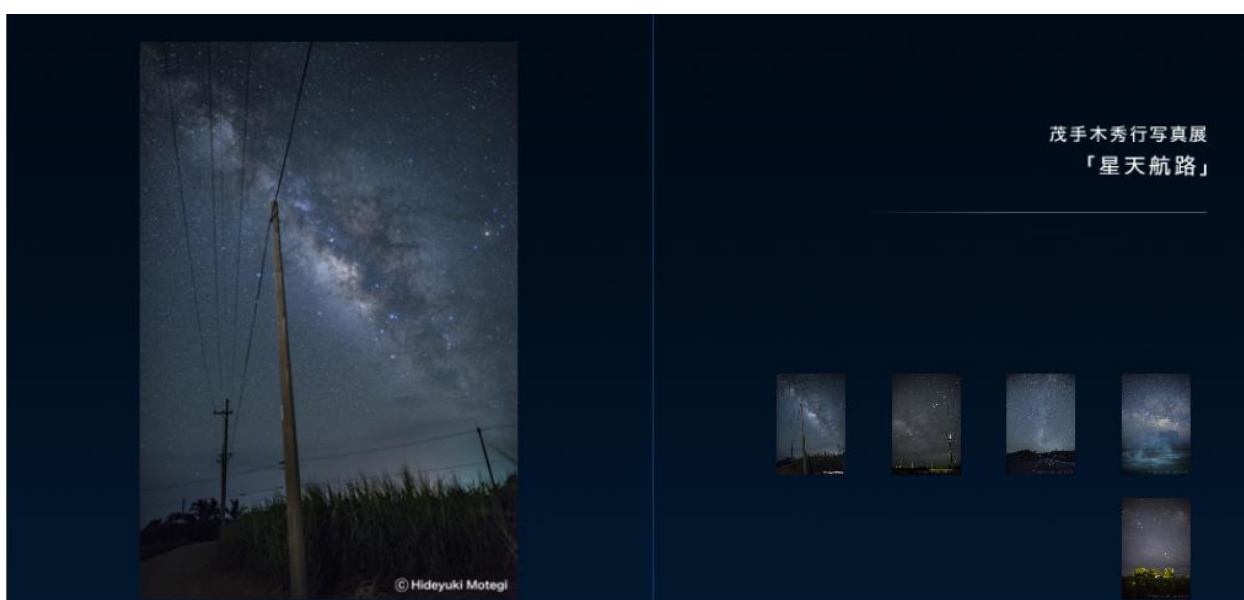
今後定期的に作品を展示する予定ですので、ぜひご覧いただきたく思います。

記念すべき第1回展示作品は、私の高校の同級生でプロのカメラマンである茂手木秀行さんの作品を展示させていただきます。

また、このショウケースは同じく高校の同級生でデザイナー兼芸術家の西英一さんをお願いして作っていただきました。これらの作品も、また今後もぜひ楽しみしていただきたく思います。

院長 田辺 知宏

現在展示中の作品



作者コメント

日本国内で撮影した星景写真。天体写真向きな快晴の晩のみではなく、雲の多い日や、日常的な風景である電線や道路越しに撮影されたカット、その対比であり不思議さや恐さを象徴する夜の海でのカットで構成した。いわゆる絶景で撮られた星景写真のように美しい星空を楽しんでもらうものではなく、少年の頃見たSF映画や怪獣映画のシチュエーションの不思議さや、幼年の頃感じた夜への恐怖が時間をへて変性し、原風景あるいは好きな風景へと転じた様を感じてもらいたいと思う。

星を見に行くことは、日常生活の中で少しだけ特別なことであるが、それを誰とどのように見に行ったのか。親に手を引かれ怖い夜道を歩きながら見上げた空には電線と天の川があった。友人と夜の海にでかけふざけ遊んでいる時ふと明るく美しい星が波間に写り皆で息を飲んだ。そんな誰にでもどこにでもある思い出を本作品につなげてみて貰いたいと思っている。また、日本国内でもまだこれだけ星を見る、撮ることができるのだということも見ていただきたい点である。

作者 茂手木秀行(もてぎ ひでゆき)



1962年東京生まれ。

日本大学芸術学部卒業後、マガジンハウス入社。

24年間フォトグラファーとして雑誌「クロワッサン」「ターザン」

「ポパイ」「ブルーガス」を経て2010年フリーランスとなる。

1990年頃よりデジタル加工を始め、1997年頃からは撮影もデジタル化。

デジタルフォトの黎明期を過ごす。

2004年/2008年雑誌写真記者会優秀賞。APA正会員、JPS正会員。

個展

2005年 「トーキョー湾岸」

2007年 「ScenicMiles道の行方」

2008年 「RMCalifornia」

2009年 「海に名前をつけるとき」

2010年 「海に名前をつけるときD」 「沈まぬ空に眠るとき」

2012年 「空のかけら」

本件お問い合わせ先 東川口病院総務課048-295-1000

東川口病院